

ぐんまハイスクール・ネットワーク構想（GHN）の概要

目的

- 中山間地の小規模校間や小規模校と都市部の高校との間で遠隔授業を実施するなどして、生徒の多様な進路の実現に向けた教育を行い、高校の一層の魅力化を図る。
- 複数の高校が協働して、地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワークを構築することで、持続的な地方創生の核としての高校の機能強化を図る。

現状

- 本県の高校においても、他の自治体と同様、少子化の進行による小規模化が進んでいる。
- 小規模校は、地域の核になっているという現実があり、仮に学校がなくなった場合、地域全体の活力が失われかねない。
- 小規模校は、教職員数が限定的であり、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の設定が困難となっている。
- 授業以外においても、子どもたちが集団生活の中で、切磋琢磨しながら人間的に成長していく場面が限られる。

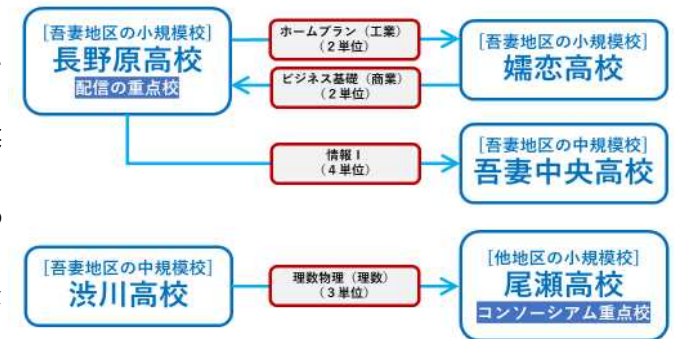
<理科の教員配置数(例)>

教科の分野	学校の規模			
	2 学級 × 3 学年	4 学級 × 3 学年	6 学級 × 3 学年	8 学級 × 3 学年
物理・化学 生物・地学	2 人	4 人	5 人	6 人

1. 「教科・科目充実型」の遠隔授業などICTも活用した連携・協働の取組

【主な取組】

- 「教科・科目充実型」の遠隔授業の実施により、生徒の進路希望に応じた多様な教科・科目の開設や指導の充実を図る。
- 教育課程の共通化による単位認定までを含めた通年による遠隔授業を実施する。
- 探究的な学びや体験的な学び等における、教育課程の共通化を伴わない遠隔授業の可能性を探る。
- 遠隔授業のメリット・デメリット等を検証し、遠隔授業の効果的な実施方法を探る。



2. (質の高い教育の実現に向けた) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

【主な取組】

- 学校間の連携を円滑に行うため、実践推進委員会等を組織し、事業計画の検討や取組の評価を行う。
- 管理職のリーダーシップの下、職員研修により教職員の指導力を高めるとともに、校内組織の見直しを図る。
- 全国に先駆けて整備した1人1台パソコンを効果的に活用し、学びの質の向上を図る。
- デジタルツールを生かすことで、探究的な学びや体験的な学びの充実など、「群馬ならではの学び」（群馬の環境を生かし、感性を磨きながら、デジタルで社会とつながることができる学び）を推進する。

3. コンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した教育の高度化・多様化に関する取組

【主な取組】

- 子どもや地域のニーズをとらえた特色ある学校づくりを推進するとともに、地域社会に根ざした学校間の連携・協働ネットワークを構築する。
- 構築したネットワークを生かして、学校外の人的資源や地域ならではの伝統や文化、ものづくりの技術や観光資源等を教育資源として活用しながら、地域の課題解決や魅力の向上等をテーマとした学習を推進する。
- 地域や学校の特色を生かしながら、県外からも注目されるような魅力の向上と発信に取り組み、学校を含めた地域全体の活性化と魅力化を図る。

ぐんまハイスクール・ネットワーク構想（GHN）の概要

育成を目指す資質・能力

- 確かな学力を育成するとともに、一人一人の能力や適性、興味関心、進路希望等に応じて、自分の将来を見据えて、たくましく生きる力を育成する。
- 郷土への誇りや愛着の心を育みながら、他者と協働しながら、持続可能な社会の作り手となるための豊かな発想力を育成するとともに、多様性を認め自他を大切に作る心や社会性を育む。
- 課題が複雑化、多様化する現代において、多角的に課題を捉え解決に向けて取り組む力を育成するとともに、情報モラルの育成を含む情報活用能力や人間関係形成力を育成する。

主なアウトプット(活動目標)

- 遠隔授業の実施科目数
令和5年度：5（令和4年度：3）
- コンソーシアムを構築する学校数
令和5年度：4（令和4年度：3）
- 公開授業や成果発表会等の開催
令和5年度：4（令和4年度：3）
- 探究的な学びや体験的な学び等の遠隔授業の実施回数
令和5年度：6（令和4年度：5）

主なアウトカム(成果目標)

- 地域課題解決等の探究的な学びに関する科目の数
令和5年度：17（令和4年度実績：16）
- 学校評価アンケートによる生徒の学校満足度
令和5年度：9割（令和4年度実績：7割2分）
- 地本中学校から入学する生徒の割合
令和5年度：25%（令和4年度実績：14%）

委託期間終了後の見通し

- 令和5年度までの取組における成果及び課題を元に、予算や人事面における状況を考慮しながら、事業の方向性について検討を進める。

【本事業R3～R5年度】

長野原高校、孺恋高校、渋川高校、
尾瀬高校、吾妻中央高校

遠隔授業の実施、学校間連携・協働

【委託期間終了後(予定)】

小規模校間の相互配信や教科情報の送受信等を中心に展開を検討